

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1070200876
法人名	医療法人社団醫光会
事業所名	グループホーム めだか
所在地	群馬県高崎市上豊岡町896-1 (電話) 027-344-6101

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2丁目29-5
訪問調査日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(20年10月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 1 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.4

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 階建ての 階 ~ 階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	90 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月 23 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢 平均 87.3歳		最低 83 歳		最高 93 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はぎわら内科医院 ひろかみ歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「明るく楽しく、安全な生活を地域と共に支援します」という理念を掲げ、管理者と職員は利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、本人の立場に立って様々な工夫や配慮をしている。地域のボランティア(茶道、生け花、書道の先生等)の協力を得て、利用者は生け花や御点前、書道の稽古をしており、全国書画展覧会に出展した利用者全員が入賞している。隣のホームの利用者が将棋を楽しみに遊びに来ている。利用者が自分の力を発揮して楽しい暮らしができるよう、職員は温かく見守りながら支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>現状に即した介護計画の見直しについては、安定しているような利用者の場合も本人・家族等の意向や状況を確認しながら、月に1度はモニタリングを行い、3ヶ月に1度は実情に即した介護計画の見直しを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、管理者と職員3名で作成しており、全職員では取り組んでいない。</p>
重点項目③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的開催しており、事業所から運営状況報告等を行い、メンバーからの意見や要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見等をサービス向上に活かしている。玄関の開錠や入浴回数増加について、メンバーから意見が出ており、改善に向けた話し合いが行われている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議に出席された時や家族の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意しており、苦情や意見等聞くように努めている。意見箱を設置している。意見等は運営に反映させるよう努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の人達には散歩時に挨拶をしたり、花や野菜等頂くこともある。小・中・高校生の職場体験学習の受け入れを行っている。地域ボランティアの受け入れを行っている。地域の茶道、生け花の先生が毎月来訪し、利用者が指導を受けている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、職員全員で検討しながら事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、職員会議等で理念を意識しながら話し合い、日々の生活の場において理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々には散歩時に挨拶をしたり、花や野菜等頂くこともある。小・中・高校生の職場体験学習の受け入れを行っている。地域ボランティアの受け入れを行っている。地域の茶道、生け花の先生がボランティアで毎月来訪しており、利用者が指導を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を踏まえ、職員会議で話し合い、改善に向け取り組む努力をしているが、今回の自己評価は管理者と職員3名で作成しており、全職員では取り組んでいない。	○	評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアの振り返りや見直し等が可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、全職員で取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しており、ホームから運営状況報告等を行い、出席者からの意見や要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。現在、玄関の開錠や入浴回数の増加についての意見が出ており、改善に向けた話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも担当職員が市に出向いている。地域密着型サービス連絡協議会主催の市町村参加の会議には積極的に参加している。事業所のイベントには市の担当者にも声をかけている。市の介護相談員の受け入れを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、利用者の健康状態や現況等を伝えている。電話で相談や報告をする場合もある。月1回「めだか便り」を発行し、配布している。金銭管理の報告は定期的に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意しており、苦情や意見等聞くように努めている。意見箱を設置している。意見等は運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者と職員の異動が重なり、利用者に安心感を与える配慮が足りない時期もあった。職員が代わる場合には、本人や家族等に口頭で説明している。新しい職員に対しては、先輩職員が1ヶ月位一緒に働きながら指導している。	○	利用者・家族等との信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要である。異動や離職がやむを得ない場合でも、その時期や引継ぎの面では利用者への配慮を今後も続けてほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらのトレーニングを基本に、法人内研修には全員参加している。食中毒研修、感染症研修、地域密着型サービス連絡協議会の研修等を交代で参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、大会に参加し研究発表を行っている。同業者と情報交換を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族等に見学してもらい、ホームの雰囲気や特徴を知ってもらったり、職員が事前に訪問し話を聞くこともある。入居後も、利用者の思いの聴き取りに努め、家族等の協力を得ながら、徐々に環境に馴染めるよう一人ひとりに合わせた対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩である利用者から洗濯物の干し方やたたみ方、掃除、昔の数え歌等教えてもらうことも多い。明るく、楽しく共に過ごせるよう、支え合える関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の言葉や表情等から思いや意向の把握に努めている。家族等からも話を聞きながら、その情報を職員間で共有しケアに反映するよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族等には日頃の関わりの中で思いや意見を聴き、介護計画に反映させるようにしている。職員会議やカンファレンスで全職員で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。毎月モニタリングを行い、職員間で話し合い、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。	○	毎月モニタリングは実施されているが、記載方法の検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、受診・通院介助や買い物支援等必要に応じて柔軟に対応している。外出行事には関連施設のワゴン車を使用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。協力医が月1回往診している。訪問看護師が週1回来訪しており、助言や指導を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化・終末期対応指針」を作成している。入居時に本人・家族等に説明し同意を得ており、方針の統一を図っている。本人・家族等ならびにかかりつけ医等と、状況に応じた話し合いをくり返し、その時々家族等の意向を確認しながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉づかいや対応は極力避けるようにしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、起床や就寝時間、掃除や洗濯物たたみ等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、その時の希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、テーブル拭き、食器洗い等、利用者が職員と共に行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事できるよう支援している。月1回外食に出かけ、一人ひとり好みのメニューを選び楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回(月・木曜日)午後に入浴支援をしている。入浴支援を週3回に増やせるよう職員で検討中である。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの習慣や好みをよく聞いて、相談しながら個別の入浴支援をしてほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳、下膳、テーブル拭き、花の水やり、掃除、洗濯物干し・洗濯物たたみ、囲碁、将棋、裁縫、書道、茶話会、生け花や茶道の稽古等、役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、庭での外気浴、散歩、買い物、ドライブ、外食、季節の花見、梨狩り、イルミネーション見物、文化センター(作品展)等へ出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出願望の強い利用者があるため、日中、玄関は施錠している。	○	自分の行動をコントロールされる理由や規則を理解することが難しい利用者にとって、鍵をかけられ自由に外に出られないことによる心理的な抑圧感や不安は大きい。職員の連携で出て行く気配を見落とさない見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態像を把握しながら、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、日中、夜間を想定し、避難誘導訓練、消火訓練を行っている。緊急時マニュアル、連絡網が作成されている。地域の協力員の人達には、一緒に訓練に参加してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録し、職員は情報を共有しながら個別に支援している。利用者の状況により、嫌いなものは好きなものに交換し、栄養バランスに配慮しながら対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはクリスマスツリーやリース、生け花が美しく飾られ季節感を採り入れている。ホールは広く、壁には行事の写真等が掲示されている。台所からは食事の準備の音や匂いを感じられる。ソファに座りゆっくりテレビを見たり、将棋をする等、利用者が心地よく過ごせる共用の空間が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には箆笥、衣装ケース、テレビ、本人の写真、家族の写真、化粧道具、書道の展覧会で入賞した作品等馴染みのあるものや好みものが持ち込まれており、安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		